

全世界で50万人以上が来場！家族で楽しめるMakerムーブメントのお祭りが今年も東京にやってくる

「Maker Faire Tokyo 2014」出展者・協賛企業募集開始
2014年11月23日（日）、24日（月・祝）お台場・東京ビッグサイトにて！

コンピューター技術者向けの専門書などを発行する出版社の株式会社オライリー・ジャパン（本社：東京都新宿区）は、**「Maker Faire Tokyo 2014」を、2014年11月23日（日）、24日（月・祝）の2日間、東京・お台場の東京ビッグサイトに開催することを発表し、出展者、協賛企業の募集を8月1日（金）から開始いたしました。**

オライリー・ジャパンは、雑誌「Make」日本語版の読者を中心に、2008年からエレクトロニクス（電子工作）、DIY、サイエンス、ロボット、アートなど異なるジャンルの「Maker」（作り手）たちの発表の場、交流の場である「Make: Tokyo Meeting」（MTM）、「Maker Faire Tokyo」を開催してまいりました。**2013年11月に行われた「Maker Faire Tokyo 2013」は、250組の出展者、9,200名の来場者を迎え、盛況のうちに終了。**来場者・出展者の皆様からの会場拡大のご要望にお応えし、**「Maker Faire Tokyo 2014」は、会場を東京ビッグサイトに移動し開催することが決定いたしました。出展者数は約350組を予定しています。本年の協賛募集においては、日本でも注目が集まりつつあるハードウェアスタートアップ企業の支援を目的に「Startup Sponsor」の協賛枠もご用意いたしました。**

3Dプリンター、レーザーカッターなどを活用したパーソナルファブリケーションの普及や、自らの製作した作品の情報（動画、製作方法、回路図、ソフトウェアなど）をソーシャルメディアなどを通じて公開することが一般的になるにつれ、個人の製作する作品が、以前よりも複雑かつ高性能なものになっており、イノベーションの誕生が期待されています。

本イベントには、テクノロジーを自由な発想で使いこなす「Maker」とその作品が多数集合。国内外の最新技術に触れられる貴重な機会を提供するとともに、モノを作ることの未来を提示します。

Makerムーブメントの全世界的な勢いは高まりつつあり、2013年にはMaker FaireとMini Maker Faireの開催地が全世界100か所を越え、合計約50万人が参加しました。2014年6月には、米国ホワイトハウスでもWhite House Maker Faireが開催されています。

■実施概要

- ・名 称：Maker Faire Tokyo 2014（略称：MFT2014）
- ・日 時：2014年11月23日（日）12:00～19:00、24日（月・祝）10:00～18:00（予定）
- ・会 場：東京国際展示場（通称：東京ビッグサイト）東京都江東区有明3-11-1 西3ホールほか
- ・入場料：前売：大人1,000円、18歳以下500円（予定）
当日：大人1,500円、18歳以下700円（予定）
（チケットはプレイガイドにて9月上旬から発売開始予定）
- ・出展者数：350組（予定）
- ・主 催：株式会社オライリー・ジャパン
- ・URL：http://makezine.jp/event/mft2014（出展者、協賛募集情報を含む最新情報を随時ご案内する予定です）

■お問い合わせ先 株式会社オライリー・ジャパン 担当：鹿野（pr@makejapan.org）

〒160-0002 東京都新宿区坂町26-27 インテリジェントプラザビル1F

TEL: 03-3356-5227 FAX: 03-3356-5261

■ Make Tokyo Meeting (MTM) /Maker Faire Tokyo (MFT) 来場者推移

MTM 01	(2008 年 4 月)	30 組 (出展者)	/ 600 名 (入場者)
MTM 02	(2008 年 11 月)	60 組 (出展者)	/ 1,200 名 (入場者)
MTM 03	(2009 年 5 月)	90 組 (出展者)	/ 2,400 名 (入場者)
MTM 04	(2009 年 11 月)	140 組 (出展者)	/ 4,000 名 (入場者)
MTM 05	(2010 年 5 月)	200 組 (出展者)	/ 7,200 名 (入場者)
MTM 06	(2010 年 11 月)	210 組 (出展者)	/ 8,000 名 (入場者)
MTM 07	(2011 年 11 月)	260 組 (出展者)	/12,000 名 (入場者)
MFT2012	(2012 年 12 月)	240 組 (出展者)	/ 9,100 名 (入場者)
MFT2013	(2013 年 11 月)	250 組 (出展者)	/ 9,200 名 (入場者)

去る 2013 年 8 月 10 日 (土)、11 日 (日) には、山口県山口市の山口情報芸術センター[YCAM]にて日本初の Mini Maker Faire となる Yamaguchi Mini Maker Faire (主催: 山口市、公益財団法人山口市文化振興財団) が開催され、多数の来場者・出展者が集まりました。**2014 年 8 月 23 日 (土)、24 日 (日) には、岐阜県大垣市のソフトピアジャパンセンタービルにて Ogaki Mini Maker Faire 2014 (主催: Ogaki Mini Maker Faire 2014 実行委員会、共催: 株式会社オライリー・ジャパン) の開催が決定しています。**

■これまでのメディア掲載実績

NHK E テレ スーパープレゼンテーション/World Business Satellite/The Japan Times/電波新聞/日経 MJ (流通新聞)/Switch (2013 年 2 月号)/R25/@IT/PC Watch/ascii.jp/Engaget/GIZMODO/CBC NET/NHK オンライン/Web Designing/Spectator/週刊ダイヤモンド/ダイヤモンドオンライン/TOKYO MX TV/東京 IT 新聞/デイリーポータル Z/週刊プレイボーイ/「広告」、他多数

■取材につきまして

・事前取材のアレンジにつきまして

Maker ムーブメントを支える人々、オライリー・ジャパン関係者の取材をアレンジ致します。

(注目の出展者情報、イベント詳細につきましては、10 月上旬ごろに再度プレスリリースにてご案内申し上げる予定です)

pr@makejapan.org までお気軽にご連絡ください。

・当日の取材につきまして

Maker Faire Tokyo2014 の当日取材の受付は、10 月上旬より開始致します。

詳細は 10 月上旬発行のプレスリリースをお待ちください。

プレスリリースを含む報道関係の皆様への情報は <http://makezine.jp/event/mft2014/press/> にて公開の予定です。



参考資料① Maker ムーブメントとは？



「Make: technology on your time」は2005年2月、米国の出版社 O'Reilly Media より、雑誌と Web サイトという形でスタートしました。

自宅の庭や地下室やガレージで、びっくりするようなものを作っている才能あふれる人たちのコミュニティが、現在どんどん大きくなっています。「Make」は、そうしたコミュニティ同士を結びつけ、刺激と情報と娯楽を与えることを目的としています。

「Make」は、すべての人が思いのままに、あらゆるテクノロジーを遊び、いじくり、改造する権利を称賛します。「Make」の読者は、自分自身、環境、教育—私たちの世界全体をよりよいものにするための文化、コミュニティとして成長を続けています。

雑誌と Web サイトの双方で、さまざまな作品やその作り手 (Maker)、読者自身が実際に作って楽しむことのできるプロジェクトを紹介していったところ、その記事を通じて、それまで個別に制作活動を行っていた Maker 同士のつながりが生まれ始めました。そのつながりはすぐに Maker 同士、Maker と読者が交流するイベントとして結実し、より大きなものになっていきます。「Maker Faire」の誕生です。

「Maker Faire」の成功により、「Make」は単なる雑誌ではなく、「Make」本誌＝ペーパーメディア、makezine.com (ブログ)＝Web メディア、Maker Faire (イベント)＝ソーシャルメディアの3つが織りなす一種のムーブメントとなりました。その活動は海を渡り、アメリカのみならず、全世界でイベントを行うまでに大きくなっています。**現在 Maker Faire、Mini Maker Faire は世界約 100 か所以上で開催され、2014 年 5 月に San Francisco で開催された Maker Faire Bayarea 2014 には約 13 万人が来場しました。また、2013 年 11 月に日本で開催された「Maker Faire Tokyo 2013」には 250 組が出展、9,200 名が来場しています。**

日本でも、新しい「モノ作り」の形として、Maker ムーブメントが注目を集めています。「Make」はそんな人たちを広く紹介し、さまざまなモノづくりの知識や経験を共有し、交流する場を生み出しています。「Maker Faire」は、実際に Maker たちが試行錯誤して作り上げたモノや卓抜な技術を発表する場所であり、人 (Maker) と人 (来場者やあらたな Maker) が出会う刺激的な場所になっています。

2013 年 1 月には、O'Reilly Media から、Make Division が独立分社化を果たし、Maker Media 社が設立されました。Maker ムーブメントとそれを支えるメディアは新たな局面を迎えようとしています。(日本では、株式会社オライリー・ジャパンが Maker Media 社の International Partner として、雑誌 (「Make」日本語版)、イベント (Maker Faire)、ウェブサイト (makezine.jp) を発行・運営を行い、日本の Maker を支援する活動を引き続き展開しております。)



参考資料② Maker Faire Tokyo 2013 出展者のご紹介（一部）



VagabondWorks

24 脚の電動脚式スケートボード。Android 端末から Bluetooth リモコンでスロットル制御、操舵はスケボーと同じように体重移動で行います。



Handie

廉価版筋電義手。一般高価な筋電義手を、3D プリンタやスマートフォンなどの技術を使用して安価に提供する。ジェームズダイソンアワード 2013 で 2 位を獲得。



ヒゲキタ

直径 5.6m のドームと恒星数 5800 個のピンホール式プラネタリウム投映機。赤青メガネを使った 3D 映像投映機で、星空と 3D 映像を鑑賞します。



チームスケルトニクス

「人間以外の動力を利用しない」「四肢の動きを 2 倍程度に拡大する」というコンセプトの人が搭乗して操作する外骨格（メカニカルスーツ）

参考資料③ Maker ムーブメントを知るためのキーワード

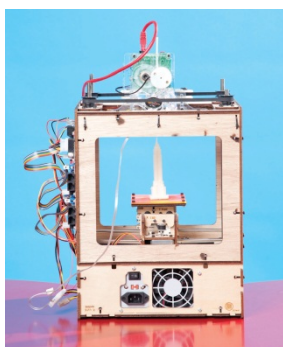


パーソナルファブリケーション

個人が自分の必要としているもの、作りたいものをデザインし、3D プリンタやレーザーカッターなどの工作機械を活用して「製造」すること。必要な機材を使用できる「FabLab」も 2011 年ごろから日本に登場しはじめた。

3D プリンタ

通常の紙に平面的に印刷するプリンタに対して、立体（3 次元のオブジェクト）を造形する立体プリンタを指す。コンピュータ上で作った 3D データを元に、樹脂を高温で溶かし積層させて立体形状を作成する。近年では 10 万円以下のモデルも登場しており、個人での導入が進みつつある。模型製作、家電の部品製作、DIY パーツの製作ほか、応用範囲は広い。



Arduino

イタリア生まれのオープンソースのツールキット。「アルドウイーノ」と読む。比較的安価なハードウェア（マイコンボード）と使いやすい開発環境で、アクセサリ、電子楽器からロボットまで様々な物を作ることができる

オープンソース・ハードウェア

回路図、動作に必要なソフトウェア、部品表などを再利用可能なライセンスで公開しているハードウェア。Arduino がその代表的な例。他にポータブルゲーム機、3D プリンタなどがある。

Raspberry Pi

ラズベリーパイ財団によって英国で開発された軽量小型のコンピュータ。学校で基本的なコンピュータ科学の教育を促進することを意図して開発され、1 台 25 ドルからという低価格も相まって、2012 年 2 月の発売開始時には、世界中から注文が殺到した。



参考資料④ Maker Faire Tokyo 2013 の様子



長蛇の列が絶えなかった「スケルトニクス」の実演



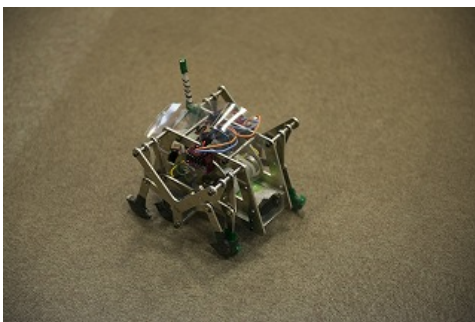
来場した方が気軽に楽しめるワークショップコーナー



プレゼンテーションコーナー。海外からのプレゼンターも



基板を使ったアクセ。手芸系の展示も多数



大型ロボから小型電子工作まで幅広く展示



2013 年は宇宙関係の展示が多くみられました。写真は宇宙エレベーターのデモ



子どもの来場者や家族連れのお客様が
たくさんいらっしゃるイベントです